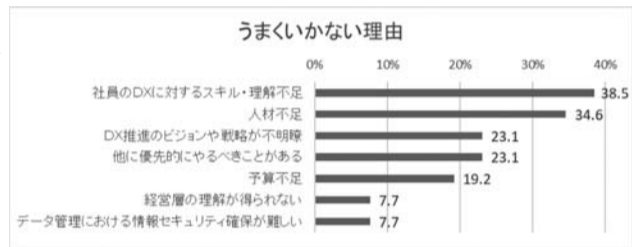
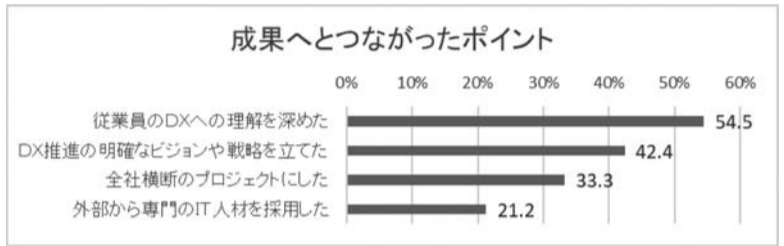


# 中小企業、DXの成功要因「従業員の理解を深めた」が半数超に

## サクサHDが経営者らのアンケート

サクサホールディングス（東京都港区）が実施した、建設業など中小企業の経営層（経営者、役員）調査によると、DX（デジタルトランスフォーメーション）で成果をあげた要因で最も多かったのは「従業員のDXへの理解を深めた」で、全体の半数以上に達した。一方、「DXがうまくいかない理由」を聞いたところ、「社員のDXに対するスキル・理解不足」との回答が最も多かった。「人材不足」と答えた経営層も多かった。不動産・建設業も今後、従業員のDXのスキルアップや関連人材の獲得が必要となるとみられる。

サクサは中堅・中小デジタル技術を活用し、アンケートで「実施企業のオフィスのDXで、顧客や社会のニーズがDXが成果へのつ支援や情報通信システムを基に、製品やサービスがポイント（工場の開発、製造、販売）をビジネスモデル（夫）は何か」と聞いたなどを手掛けている。を改革することだ。業と「従業員DX調査は同社が中小企業業務そのものだけでなくXへの理解を深めた」の経営者や役員を対象に、組織、プロセス、が全体の54・5%を占に7月21～24日に実施。企業文化・風土を改革、最も高い割合を占し、218件の回答をする。DXと称は「DX推進の明確な業種は不動産、建設業の向上や市場の変化へた」で42・4%。「全のほか、情報通信、製造、卸売・小売、サービスの迅速な対応、新商品社横断のプロジェクトに33・3%を占めた。DX施策では、DXは、データやデ



で、従業員1人1人が協力していくことが成功の秘訣になるという結果になった。「外部から専門のIT人材を採用した」は21・2%だった。

一方、「DXがうまくいかない理由は何か」（複数回答）を聞いたところ、最も多かったのは「社員のDXに対するスキル・理解不足」（38・5%）、「人材不足」（34・6%）で続き、人材の能力や有能な人材